

長岡税務署長賞

くらしに活きる税

長岡市立関原中学校

三年 寺塚 芽生

一冊一二〇〇円。受験勉強に使う参考書を書店で買うとき、手にとった値段に私は高いと感じました。月に一三〇〇円お小遣いをもろう私は、勉強のためにそこまでお金をかけるのはもったいないなという気持ちでした。

その時ふと、「教科書は無償」ということを思い出しました。教科書は一冊に必要な内容から例題、ポイントまでたくさんのが詰まっています。とても便利なものです。私の買った参考書よりも内容が幅広いうえにお金がかからないのは、考えてみれば目覚ましいことです。

教科書だけでなく、私たちの学校では、学校の机や椅子、実験道具、パソコンなどあらゆるところで税金が使われています。これらに使われる税金は、一年間で中学生一人当たり約一〇〇万円にもおよびます。税金がなかったら、この多額の費用を個人で負担することになります。だから何気なく学校で使っているものが、税金によって私たちの学びを支えてくれることに感謝すべきだといふ心から思いました。

このように「税金」が社会に役立つものは他にもたくさんあります。道路や橋、公園、ごみ処理施設の設備など身近なところで私たちの暮らしを支えてくれています。これも税金がなければ、

橋や道路が壊れても修理してもらえず、通行の際に危険を伴います。ゴミ収集車も来ず、ゴミが街にあふれ不衛生になります。税金がなくなるだけで暮らしの大切な土台が欠け、様々な支障が生じます。私は考えるだけでも、こんな世の中になってほしくないと思います。

令和元年、消費税が十パーセントに引き上げられました。主に、年金や医療など社会保障の財源確保のためだそうです。これにたくさんの方の不満が出ました。私も当時、「えー、まじか。」と思いました。よく考えればそれは、いまの日本の現状が厳しいという合図であり、国民が寄り添うべきことを示しているんだと気づきました。この気づきに応えるべきです。

国民一人ひとりの消費税が国の貴重な財源となります。ですが、今もなお消費税に対して、「なぜ高齢者のために働いている側がお金を払わなければならないのか」「自分のためになるわけでもないのに」と不満を持つ人がいます。いつかは誰しも自分に消費税が役立つときが来ます。自分には関係ないのではなく、今の世の中に向き合い、今後の自分や国のためにも社会に貢献すべきだと思えます。

税金は、私たちの暮らしを支え、世代をつなぐ架け橋です。税金の偉大さを今一度知り、感謝しながら暮らすとともに、今後の日本に期待を抱くべきです。私も、税金で学習できることに感謝して学校に行きたいです。そして、消費税を払うことで国に貢献することを誇らしく思おうと心に決めました。